

第6学年 学級活動 学習指導案

1 日時 令和元年 12月17日(火) 第5校時(13:35～14:20)

2 場所 6年教室

3 題材名 「災害時にわたしたちができること」

学級活動(2) ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

4 題材について

(1) 児童の実態

6年生の児童(男子6名、女子3名)は、クラブ・委員会活動、縦割り班活動など様々な場面で、最高学年としての自覚をもって活動に取り組んでいる。自分のことだけでなく、周りの様子を見て人のために行動しようとする児童も増えてきた。

児童は、避難訓練や防災学習会を通して、災害の種類や災害時の身の守り方について学び、防災に対する意識も高まりつつある。また、昨年の西日本豪雨で岩城島も大きな被害を受けた。土砂崩れによって川が埋まってしまったこと、道路が割れてめくれていたこと、断水で役場に水をもらいに行ったり学校で非常食を食べたりしたことなどを、児童は今でもよく覚えている。

10月に国語科「パネルディスカッションをしよう」の学習で「災害から身を守るために何が大切か」を題材に話し合いをした。その際、これまでの経験から「災害時に身を守るための知識」「災害に備えた準備」「災害時に助け合える人と人とのつながり」といった意見が出た。話し合いがきっかけとなり、その後、自分の家の非常持ち出し用袋の中を見てみたり、家族と一緒に避難場所を確かめたりする児童も出てきた。友達の家の方策を聞く中で、自分の家に足りていない物に気付いたり、昨年の断水時のことを思い起こして、井戸水や飲み水、ウェットティッシュの提供など周りの人たちの支えのありがたさを改めて感じたりしていた。

(2) 題材設定の理由

災害時の行動について、児童には「まずは、自分の命を守る行動をとることが大事」と教えてきた。児童は、これまでの学習を通して、自分の身の安全を守る方法についての理解は深まりつつある。しかし、地域の支援を必要としている人の様子を知り、互いに力を合わせて助け合おうとする考えまでは至っていない。児童は、平日の大半を学校で生活している。しかし、学校の休み時間や登下校中など教師や大人の目が届かない時に災害が起きた場合、6年生として、自分より下学年の子どもたちにも目を向け、「一緒に逃げるよ。」「ここは、危ないよ。」「大丈夫だよ。」と一声掛けたり、誘導したりできるだろうか。また、本校は地震(津波を除く)、台風、土砂災害時の避難場所になっている。避難所には、たくさんの避難者が押し寄せてくることになるが、その中には、幼い子どもや体の不自由なお年寄りもいるはずである。災害発生により、学校が避難所になったとき、「普段使っている体育館や教室はどうなるのだろう。」「自分たちはどんな生活をするのだろう。」「何かお手伝いすることはあるだろうか。」と、自分のこととして考え、行動できるだろうか。もうすぐ小学校を卒業する児童に、災害時に対応する力や実践に移すことのできる力を身に付けてほしいと願い、本題材を設定した。

(3) 指導の工夫

指導にあたっては、まず、突然の災害に対して「自分の命を守る行動が最優先」であることを確認したうえで進めていく。児童が本時の活動を通して、災害時、自分の周りにいる支援を必要とする人の存在に気付き、思いやりの心をもって自分たちでもできそうなことを考えられるようにする。

そこで、避難所運営ゲームHUGを通して、避難所に避難してくる人は健康な人ばかりでなく高齢者や妊婦、小さな子どもなど、支援を必要とする人もいることに気付かせたい。その後、様々な人がやって来る避難所の中で自分たちができることはないか考えさせる。「小さい子どもと一緒に遊ぶ。」「だれかの話し相手になる。」「(自分の学校の場合)場所の案内をする。」や「大声を出したり、走りまわったりしない。」「みんなで使う物(トイレなど)はきれいに使う。」など避難所でのルールやマナーも含めて、小学生の自分たちでもできそうなことに目を向けさせていく。授業の最後は、実際に避難所にいた小学生が行った行動、避難所を運営した人が小学生にやってもらいたいことを紹介し、避難所での自分たちの役割をイメージできるようにしたい。

5 事前活動

活動の内容	指導上の留意点	活動の中で期待する児童の姿と評価方法
・ 地震、土砂災害について学ぶ。(学校行事「防災学習会」)	・ 地震の揺れや土砂災害についての講話や体験学習を通して、災害から命を守る知識を身に付けさせる。	・ 自分の命は自分で守ろうとする意識をもつことができる。(観察)
・ 災害から身を守るために大切なことを考える。(国語科「パネルディスカッションをしよう」)	・ 近年、起こった災害を取り上げ、その時の人々の事前の準備や避難の様子をふまえて、発表させる。 ・ 全体で話し合う前に、我が家の防災対策について調べさせる。	・ 突然起こる災害から、身を守る方法を考えることができる。(発表)
・ 防災カードゲーム「このつぎなにがおきるかな?」を体験する。(帰りの会)	・ 災害が発生したときに起こる危険な状況をゲームを通して感じ、どのような行動をとればよいか考えさせる。	・ 災害から命を守るための方法を知る。(観察)
・ 避難所運営ゲームHUGについて知る。(朝の会)	・ ゲームの進め方を事前に知ること、スムーズに本時の活動に入れるようにする。	

6 本時の展開

(1) ねらい

- 避難所には様々な人（高齢者、小さい子ども、病気の人など）が避難してくることに気付く。
- 周りの人のために自分たちができることを考え、いざという時に行動できる実践力を養う。

(2) 資料 避難所生活がイメージできる写真 校舎配置図（体育館、教室）

避難所運営ゲームHUG（岩城小バージョン） ワークシート

(3) 展開

	学習活動	時間（分） 形態	○ 指導上の留意点 ◆ 評価
導 入 つかむ	1 避難所の様子を見て、思ったことを発表する。 ・ 子どもからお年寄りまで、たくさんの人がいる。 ・ 一人一人のスペースが狭い。 ・ 疲れていそう。不安そうな顔の人がいる。	5 全体	○ 避難所運営ゲームHUGをする前に避難場所の様子の写真を見せることで、学校が避難所になり、避難者が集まったときの様子をイメージさせる。 ○ 大勢の人がいる避難所の中で、自分たち（小学校高学年）が「できることはなか」について、これから考えていくことを伝える。
展 開 気付く	2 学校が避難所になった時の様子について考える。 災害時に、みんなが少しでも安らげるようにするために、わたしたちには何ができるだろう。 (1) 避難所運営ゲームHUGを体験する。 ・ 病気の人は大勢の人がいる体育館では、しんどいね。 ・ 杖をついたおばあちゃんが来た。足が不自由そうだ。どの場所がおばあちゃんにとって、いい場所だろう。 ・ 目が不自由な人が盲導犬を連れて来た。犬は体育館内禁止かな。でも、この場合どう	15 グループ	○ 避難所運営ゲームHUGのやり方は事前に説明しておく。 ○ 条件（12月17日、土砂災害、避難所は岩城小学校、雨が降り続けている。）を伝える。 ○ 避難所運営ゲームHUGを通して、避難所には健康な人だけでなく、支援を要する人が避難してくる様子をイメージさせる。

	しよう。 (2) 様々な状況の人を配置していく中で、気付いたことや、気を配ったことを振り返る。 ・ 避難所には健康な人ばかりでなく、いろいろなことを抱えた人も避難していた。 ・ 病気の方は、大勢いる体育館だとしんどいと思うから、人数の少ない教室に行ってもらったよ。 ・ 足の不自由な方は、長い距離を歩いたり、階段を登り降りしたりするのが大変だと思うから、1階の場所にいてもらったよ。トイレにも近い方がいいと思ったよ。 ・ 子どもだけで避難してきていたよ。不安だと思うから、同じ歳ぐらいの子がいる家族のそばにしたよ。 ・ 一人で避難してきている人がいるね。顔見知りがいそうな同じ地区の人のそばにしたよ。	10 全体	○ 活動の中で気付いたことや気を配ったことを振り返り、支援を要する人（高齢者、小さい子ども、病気の人など）の存在に気付くことができるようにする。 ◆ 避難所には、様々な状況の人が避難してくることに気づき、共助の意識もつことができたか。（観察・発表）
終 末 決める	3 様々な状況の人々が集まる避難所で自分たちにできることを考える。 (1) 自分たちができそうなことはないか考える。 ・ トイレの場所を案内できるよ。 ・ 小さい子どもたちと一緒に遊ぶよ。 ・ 一人で寂しそうにしている子に声を掛けよう。 ・ 大声で騒いだり走り回ったりするのはよくないね。	10 個人→全体	○ 家庭や学校でもやっていることを思い出しながら、自分たちにもできそうなことを自由に考えさせる。 ◆ 避難所で周りの人のために自分たちができることや心掛けたいことを考えることができたか。（ワークシート、発表）

	・ みんなで使うもの（トイレなど）はきれいに使うよ。 (2) 避難所での子どもの行動（H28.4.22 新聞記事）や、避難所を運営された人の話などを聞き、自分たちにもできることがあることに気付く。	5 全体	○ 自分たちと同じ小学生の行動を伝えることによって、自分たちができそうなことをしようとする態度を養えるようにする。
--	---	---------	--

7 事後指導

- 学級通信で本時の学習内容を報告し、家庭で災害の種類に応じた避難場所や避難経路の確認を児童ともう一度やってもらう。
- 2学期末における小中合同避難訓練において、避難経路の安全を確認しながら、避難場所まで落ち着いて避難できるようにする。

8 研究の視点

- 防災について正しい知識と実践力を身に付ける指導であったか。
- 災害時に、自分の身の安全が確保できたうえで、周りの人のために自分たちができることを考え、行動しようとする意識を育てることができたか。

9 参考資料

- 静岡県地震防災センター（避難所運営ゲームHUG）
- 宮城県総合教育センター 防災教育ハートフルパック
- 学校安全に関する手引き 熊本県教育委員会